

平成26年度 第2回府中市食育推進計画推進等協議会議事録

日 時 平成26年10月9日(金) 14:00～16:00

場 所 府中市保健センター分館3階研修室

出席者 <委員>

上岡会長 並木副会長 齊藤委員 逸見委員 森本委員

<事務局>

健康推進課 横道課長 鈴木補佐 福田副主幹 福嶋係長

野勢主任 加藤 窪田

経済観光課 大木係長 生涯学習スポーツ課 目黒係長

高齢者支援課 板垣主査 学務保健課 渡辺所長

欠席者 <委員>

宇留間委員

<事務局>

保育支援課 朝日保育所熊谷所長

傍聴希望者 なし

《次第》

1 開会

2 協議事項

(1) 第2次府中市食育推進計画素案について

3 その他

《資料一覧》

資料1 第2次府中市食育推進計画素案

資料2 市民の食育の取組

資料3 第2次府中市食育推進計画パブリックコメントについて

《議事概要》

1 開会

<事務局>

出欠の確認

協議会設置要綱第6条の2項により委員6名中5名が出席しているため、本協議会は有効とされました。

資料確認

追加資料 資料3 第2次府中市食育推進計画パブリックコメントについて

<事務局>

健康推進課長 開会の挨拶

府中市第2次食育推進計画の骨子がまとまり、本日は計画内容の協議となる。委員それぞれの立場、それぞれの視野、視点を活かしてもらい、市民に分かりやすい計画となるよう、最終的に煮詰めていきたいと考えている。

今後のスケジュールとしては、議会等々を経て来年度から産声をあげる計画とし、本市複数の計画とともに、方向性を定めていきたい。活発な協議をお願いしたい。

<事務局>

この協議会は公開されている。傍聴希望の方がお見えの場合は、お諮りしたい。

尚、本日は素案に関する最終協議となる。誤字、文章構成等については事務局で訂正中である。主に内容に関する意見をお願いしたい。

議事進行を会長にお願いする。

これより議事進行は会長となる。

<会長>

次第のとおり進めていく

1. 協議事項

(1) 第2次府中市食育推進計画素案について

<事務局> ※**資料1**参照

第1章 計画の策定にあたって

1 計画の策定(1ページ)では、食を取りまく環境の変化や問題点を示し、府中市食育推進計画の策定に至った経過について述べている。

本計画についても、関連機関のそれぞれの役割を果たし、周知及び実践をすすめていきます。

2 計画の背景と食育基本法に基づく取組(2ページから3ページ)では、国、及び東京都、府中市の取組について述べている。国では平成17年に食育

基本法が制定され、翌年には食育推進基本計画が策定されている。

2 ページ訂正箇所 誤 (国) 第2次食育推進計画 → 正 (国) 第2次食育推進基本計画へ。

その後、平成23年には第2次計画にあたる第2次食育推進基本計画が策定され、3つの重点課題が示されている。食育の周知から実践へと展開されていく。東京都では平成18年に東京都食育推進計画が策定され、その後、平成23年度には第2次東京都食育推進計画が策定されている。本市では国及び東京都の計画を踏まえ、平成22年3月に府中市食育推進計画を策定し、スローガンのもと、3つの共通目標を掲げ、ライフステージごとの目標を定め、関連機関において様々な取組を進めてきた。

3 第2次府中市食育推進計画の策定に向けて (3ページ)

平成26年度で府中市の計画は終了するため、次の計画に向けて協議会を立ち上げ検討してきた。ここでは第2次府中市食育推進計画のスローガン及び、3つの共通取組を示している。

4 計画の位置付け (4ページ)

第2次府中市食育推進計画と他の計画との関係について示している。国及び東京都の計画を踏まえ、第6次府中市総合計画のもと、関連計画との整合性を図りながらすすめていく。

4 ページ 訂正箇所 誤 東京都推進基本計画 → 正 東京都食育推進計画

5 計画の期間と推進 (5ページ)

第2次府中市食育推進計画は平成27年度から32年度までの6ヵ年となり、食育に関係する事業については、毎年把握していく。推進及び評価については府中市食育推進計画推進等協議会において、29年度に中間評価を行い、その内容の評価を踏まえ後期計画を展開し、32年度には最終年度の評価を受けて次の計画に進めて行く予定である。

6 計画の実施 (6ページから7ページ)

計画を実施するためには、様々な関連機関がその特徴を活かした食育の取組を進めて行くことが大切となる。7ページの食育関連図では市民一人ひとりの健康な食生活を支えるために、第2次府中市食育推進計画の取組のもと関連機関の連携をイラストで示した。

<会長>

第1章では国、東京都、府中市の計画の関係性を示している。大きな変更点は、第2次計画は6年間となる。

質問はあるか。

<委員>

(3) 府中市の取組(3ページ)の中で計画に「基づき」とあるが、「基に」と

した方がよいのではないか。

また、3 第2次府中市食育推進計画の策定に向けて（3ページ）にアンケート調査等や市内各課での食育関連事業での調査とあるが、アンケート調査や市内各課での食育関連事業での調査等とした方がよいのではないか。

<委員>

2ページ東京都の取組の中で計画の時期が間違っている。また、特徴についても若干文言が違うと思うので整えていただきたい。

<会長>

事務局側で確認してもらおうが、12月頃まで修正期間があるので気づいた点があったら事務局まで連絡してもらいたい。

続いて第2章、第3章について事務局から説明をお願いします。

<事務局>

第2章 府中市の食をめぐる現状と課題について

1. アンケートの調査結果から見た現状と課題（8ページ）

・アンケート表記方法の変更

調査1 「食事についてのアンケート調査」

調査2 「平成25年度東京都児童・生徒体力・運動能力、生活・生活習慣等結果」より

調査3 「健康に関する市民アンケート調査」より抜粋

・「食育ふちゅう」にて委員の活動の記載箇所あり

2. 事業評価から見た現状と課題（20ページ）

・委員からの依頼で付加した項目

・22年度と25年度の取組に対する実績と評価

第3章 食育推進計画の方針について（22ページ）

1. 市の基本理念

2. 共通取組

<会長>

第2章3つのアンケート調査の共通項目について示す。

前回の協議会で指摘があった件について、（11ページ）朝ごはんを食べない理由に関して事務局より回答をお願いします。

<事務局>

乳幼児期のアンケートの回答は保護者であり、具体的な理由としては家庭の食

環境の影響が大きいと思われる。また、保護者の朝食を食べない等の食傾向の影響も考えられる。

ここでは、アンケートの結果のみについて記載しているが、理由についての追記・修正の予定。

<会長>

食欲がないのは用意しても食べないのかどうかを確認したい。

<事務局>

細かいところの調査はしていないので、はっきりしたことは言えないが親が用意しても食べないのは考えにくい。食べる時間がない、起きてすぐで食べられないなどの理由が多いのではないか。この件に関しても、分かりやすく記載していきたい。

<会長>

12ページ朝ごはんの摂取と体の不調の関係について、事務局より追加説明があるか。

<事務局>

朝ごはんを食べないことのへの体の影響、体の不調はわかりやすく追記していく予定である。

<委員>

10、11ページ「朝ごはんを食べない」という言葉への表記の統一をした方がよい。

10、11、13ページの数値に関して、表示の表記方法を統一した方がよい。

11ページ 下から2行目について、推論をあげてよいのか根拠は何か。

17ページ 欠食率等の表記方法を確認した方がよい。

22ページ 共通取組①③共通部分が多いため、③はいらないのではないか。

<会長>

数値の表記方法統一、表現方法の統一を確認し加筆修正をしていく。

食習慣は乳幼児期に形成される根拠の掲載をする。

共通取組の①③の違いについて、①に関して、食は個人レベルのものなので、市民へどう取り組ませていくかであり、③は市としてどう取り組むかの違いなのではないかと理解したが、事務局側はどう考えているのか。

<事務局>

③文章の整理をしているところであり、今後連携強化の趣旨がわかるように表記して違いを明確化していきたい。

<委員>

違いが明確でない為、同項にまとめるべきではないか。

<事務局>

内容に重複がないように整理し、分かりやすくまとめる。

22ページの言葉の解釈 周知に努める 地域での食を通じたネットワーク形成による周知と発信によってお互いの理解を深めていく方向性である。

③の府中市の食育を広めて周知に努めるという表記だけでは表面的で伝わらない部分もあるため、更に分かりやすく表現する必要性がある。

<会長>

3つの共通取組の表記の仕方について

中身についてはまとめて表現するか、分けて表現するか事務局で整理し、次回に示して欲しい。

<委員>

物事は始める時にはPlan、Do、Seeがある。これは最初の基本Planであり、本市としてこんなことをやっているとの啓発である。共通取組はPlanであるため、知らない人へ広めていくものとして使えばよい。知らない人へ広めていくためのツールとしては良いのではないか。

<委員>

3ページの第1次計画の共通目標の文言をそのまま使えばよいのではないか。あえて変えたのはなぜか。第1次計画の共通目標のほうが分かりやすかったのではないか。

<委員>

第1次計画のスローガンや共通目標がなぜこの項目に変わったのか説明して欲しい。

<事務局>

本計画は国や都の計画に基づいて周知から実践（国の取組も同じである）に変わってきている。市民の意識を高め、計画を1歩先に進めていくため、ライフステージごとにそれぞれの立場で取組んでいく。言葉の違いは計画の違いである。

<委員>

実践に向かうようにもっと適切な言葉での表現し、「意識を高める」ではなく、実践する方向に表記を変えるべきではないか。

7ページの関連図に基づいて仕事をしていけるような言葉で表現すべきで、周知という表現は違う。

<委員>

周知ではなく実践という言葉が望ましい。

<会長>

スローガンと共通取組に関して意見を整理して、文言の整理をする。

連携がキーワードということで、活動に関するコラム、連絡先の記載がある。
第2章、第3章については以上となるが、何かあるか。

<委員>

地域栄養士会か地域活動栄養士会のどちらなのか。

<委員>

地域活動栄養士会で連絡先は保健所としたい。

<委員>

連絡先はまた確認してもらえばよい。

<会長>

第2章、第3章では、文言と数値の表記の仕方・事務局での追記とスローガンや共通取組の再整理をお願いしたい。

<委員>

11ページの朝ごはんについてだが、高齢期朝ごはんを食べる習慣がないのが増えていることが不思議である。どの程度でのデータなのか分かるように記載を望む。理由など誤解を生まないような表現で統一して欲しい。

<事務局>

習慣がないという記載に関しては、年代が推移している。5年前では年代も変わってくると前回も説明した。年代や日数に関してはアンケートで詳しく記載してあるが、もっと分かりやすい形で追記していく。

<会長>

続いて、第4章について事務局から説明をお願いします。

<事務局>

第4章 ライフステージごとの課題と具体的な取組

アンケート結果を踏まえたライフステージごとの現状・課題・取組について記載した。また、「食育ふちゅう市民の声」を新たに記載した。

関係機関での取組をライフステージごとに記載 参考資料で掲載した

乳幼児期、学童期、思春期、青年期、中年期、高齢期について記載している。

23ページ 乳幼児期は心身の成長が著しい年代であり、食習慣や生活リズムを身につける大切な時期である。食育ふちゅう市民の声では子どもの食について市民にとってより身近な取組として参考になるのではないか。

27ページ 学童・思春期は様々な情報を得て実践につなげることが出来るようになる時期である。食育ふちゅうでは農業体験による食育活動や給食センターでの取組を紹介する。体験によって理解が深まり実践につながることを期待する。家庭向けに献立やお便り等の情報提供することで正しい知識や望ましい食習慣を身に付けることを促す。

31ページ 青年期から中年期は朝ごはんを食べない割合が最も高い。生活環境の変化の影響が大きいが自身の食生活が今後の健康に影響することを再認識し、食に関する必要な情報を得て正しい選択、判断が出来るよう情報発信していく事が必要である。

35ページ 中年期から高齢期とあるが、高齢期ではなく初老期に訂正。中年期から初老期は初回の中心となりストレスがたまりやすく自らの健康がおろそかになりやすい。正しい知識を持ち健康を維持増進することが大切。38ページには経済観光課の事業を掲載。

39ページ 高齢期は嚥下機能の低下をあげましたが本市では摂食・嚥下機能支援システムが機能しており41、42ページに詳しく記載した。43ページには高齢者支援課の事業を掲載した。

<会長>

第4章については、アンケート結果を踏まえライフステージごとに現状・課題・取組を整理している。

<委員>

27ページ 冒頭「学童期」の言葉が抜けている。（思春期という言葉との兼ね合い）

27ページの表の見出し・グラフの中身の名称についての確認する。

29、30ページ言葉の確認、訂正が必要と考える。

<事務局>

27ページのグラフについては、調査は東京都で行った調査の中での府中市の結果と訂正する。グラフの名称は記載する。

<会長>

第4章での大きな変更点として、食育ふちゅう市民の声が入っている。

32ページのように市民の声が入ったことで共感や不明点が明確になり、市民の声をもっと蓄積し、それを踏まえ今後、市からの的確な発信をしていきたい。

<事務局>

11ページ高齢期のデータは平成22年のデータに間違いがある可能性もあるため、精査した上で次回提示する。

<会長>

第2次計画 数値目標でなく取組内容に重点を置く計画である。

第3次になるときの第2次の評価はどうするかがひとつの課題となる。

- ・市民アンケートは引き続き行う
- ・市の取組21ページのとおり引き続き行う。
- ・市民のアンケート調査での意識調査を行う。

食に対する意識が高まっているか確認を検討している。

<事務局>

第2次府中市食育推進計画は具体的数値の目標は設定せず、取組の中で評価していく。

事業調査は毎年行う。

次計画に向けてアンケート調査は行う。内容は精査していく。

食育ふちゅう市民の声では、家庭等での実践を生の声として受取ることができて有意義であった。このような調査も取組につなげていきたい。

<会長>

気づいた点はあるか。細かい修正の締め切り、今後の予定は事務局から説明。

その他、問題点、補足説明の必要なものはあるか。

<委員>

取組の書き方に関してだが、行政計画ならばそのままよいが、6ページのように連携強化ならば取組に市民や関係機関や本市としての取組を書いた方がよいのではないか。

<会長>

連携強化であれば、委員の提案どおりに詳しい書き方もあると思う。

<事務局>

取組に関しては資料編の52ページに詳しく記載している。平成26年に実施予定の事業等を詳しく掲載している。

こちらを分かりやすく活用できれば良いのではないか。

<会長>

33ページ中食の説明について。四角く囲む必要があるか？強調の必要はない。

その他の細かい気づいた点は、後日事務局へ連絡して欲しい。

資料についての補足があれば、お願いしたい。

<事務局>

資料の説明

45ページの資料編では、本計画策定の基本とした食育基本法やその基本理念、第2次食育基本計画及び推進に当たっての目標を示す。52ページは府中市で取組んでいる食育事業について記載している。60ページは8ページからのアンケート結果、最後に策定経過を記載している。

56ページ府中市で取り組んでいる事業等の補足説明をしている。

<会長>

資料について何かあるか。

<委員>

高齢者のところ一人暮らしの老人に関する表記が暗い感じがする。高齢期でも元気で頑張る事が出来るような表記のほうがよい。

<事務局>

高齢者支援課では「食べるかむクラブ」等様々な取組をしている。このような活動を分かりやすく表現していく。

<会長>

39ページの表現に関して、もう少し明るい感じにしたほうが良い。高齢期を明るく前向きに元気で過ごせるような文言を入れたほうが良い。

<委員>

53ページに関して、主催者ごとに分けたのであれば、連絡先を入れたほうが良い。

<会長>

今後の予定について等、その他に関して事務局より説明して欲しい。

<事務局>

パブリックコメントまでの流れについての説明をする。

資料3は広報に載せるものとほぼ同じものである。

期間 10月30日（木）～11月29日（土）

場所 府中市保健センター、府中市保健センター分館、中央図書館、
各文化センター、市政情報センター、市のホームページにて公開

素案 本日いただいた意見を踏まえ、修正したものをパブリックコメントにかける。パブリックコメントで出た意見を踏まえ、修正をかけたものを最終案として1月の会議で提示する。その後決定という流れとなる。

その他、意見いただく期間としては、本日の意見を修正し、パブリックコメント前に委員の皆様へ送付したい。

パブリックコメントと同時期にご意見をいただくことになる。

資料2に関しては資料の中で説明してあるのでこの場では割愛する。

第3回協議会 平成27年1月27日（火）

午後2時から4時を予定 会場は保健センター分館

次回協議会では第2次府中市食育推進計画素案の決定についてご協議いただきたいと考えている。

保健センター分館は平成27年1月より保健センターに統合し保健センターに拠点を移す。そのため、保健センター分館は常に人がいる状況ではなくなるが、本会議はこの場所で行う。

住所は変わるが、電話番号やメールアドレスは変更ない。住所は決まり次第お知らせしたい。平成27年以降の協議会等の場所は未定。

これにより、本日の協議会は終了とする。

（閉会）